

令和4年度年間文学講座

趣旨	古典文学と近現代文学について、第一線で活躍する研究者がわかりやすく解説します。
受講料	無料
定員と会場	講座1,2すべて40名。(要申込。いずれも先着順で定員になり次第締切。) 今年度の会場は、全講座研修室となります。
確認事項	本講座はキャンパスネットやまなし及びことぶき勸学院連携講座です。また、諸事情により、開催を延期(または中止)する場合があります。ご来館前に当館ホームページでご確認いただくか、当館までご連絡ください。
申込	各講座各回ごとに申込をしていただきます。各講座の開催日2週間前から前日までの間に電話のみの申込でお願いします。
問い合わせ先	山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35 TEL 055-235-8080

講座	講師	日程と講義内容			申込開始日
講座1(全8回) 『源氏物語』 入門 - “若い” 光源氏を描く 巻々- 14:00-15:30 文学館研修室	池田尚隆 元山梨大学 教授	1	4/22(金)	「桐壺」巻	4/8(金)
		2	5/20(金)	「帚木」「空蟬」巻	5/6(金)
		3	6/17(金)	「夕顔」巻	6/3(金)
		4	7/15(金)	「若紫」巻	7/1(金)
		5	8/19(金)	「末摘花」巻	8/5(金)
		6	9/30(金)	「紅葉賀」「花宴」巻	9/16(金)
		7	10/21(金)	「葵」巻	10/7(金)
		8	11/18(金)	「賢木」巻	11/4(金)
講座2(全8回) ジャンルを 超える文学の 可能性2 14:00-15:30 文学館研修室	大村 梓 山梨県立 大学 准教授	1	4/16(土)	文学作品に描かれる都市-川端康成『浅草紅団』	4/2(土)
		2	5/14(土)	洋装と和装の人々-幸田文『流れる』、谷崎潤一郎『細雪』	4/30(土)
		3	6/4(土)	芥川龍之介による切支丹物	5/21(土)
		4	7/2(土)	異国から日本を描く-カズオ・イシグロ	6/18(土)
		5	8/6(土)	フランスかぶれの日本人たち-与謝野晶子の時代から現代まで	7/23(土)
		6	9/24(土)	ミステリーは学校で起こる-辻村深月、宮部みゆき	9/10(土)
		7	10/15(土)	お転婆な女たち-樋口一葉「たけくらべ」	10/1(土)
		8	11/12(土)	震災について詠む・書く、歌人・詩人たち-俵万智ほか	10/29(土)

※来館される時のお願い

・入館時にマスクの着用と入口での検温及び手指消毒をしてください。また、チェックシートの記入をお願いします。(混雑緩和のため、当館ホームページよりチェックシートを印刷し、あらかじめ記入したものを持参いただきますよう、協力をお願いします。) 受付は13時より行います。

・発熱や咳などの風邪症状、呼吸器症状など体調に不安のある方は、当日の来館をご遠慮いただいております。ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

講師紹介

年間文学講座1 池田尚隆（元山梨大学教育学部教授）

1954年、三重県津市生まれ。1982年東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程退学。同大助手を経て、1986年から本年3月まで山梨大学に勤務。平安文学専攻。歴史物語と漢文日記（古記録）を中心に研究している。

1985年から27年をかけて完成した『御堂関白全註釈』（16冊、思文閣出版）では、編集メンバーの一人として、編者の山中裕氏に協力した。編著書に『藤原道長辞典 御堂関白記からみる貴族社会』（共編、2017年、思文閣出版）、著書に『新編日本古典文学全集 栄花物語①②③』（共著、1995～1998年、小学館）。

1990年、初年度の山梨県立文学館年間文学講座の講師を務め、その受講者の方々と始めた読書会「源氏の会」は今年で31年目を迎える。同講座の講師は2011年から2015年にも務めた。

年間文学講座2 大村 梓（山梨県立大学国際政策学部准教授）

山梨県立大学准教授。専門は日本文学・日本文化、比較文学・比較文化、翻訳研究。著書に『村上春樹における秩序』（共著、2017年）、『文化表象としての村上春樹』（共著、2020年）。また近年は、日本近代詩と翻訳詩の関係について、翻訳家・詩人である堀口大樹を中心に研究を行っています。

そして学生をはじめとする地域の方々に文学をより身近に感じていただくようと、2020年に学生と文芸雑誌『トート』を始めました。詩や短編、エッセイ、紀行文、漫画など、多彩なジャンルの作品が掲載された本誌は年3回発行され、山梨県立文学館にも所蔵されています。

今回の講座ではさまざまな作品を受講者の方々に楽しんでいただきたいと思います。私の専門が比較文学ということもあって、それぞれ海外から見た視点を織り交ぜながら話していく予定です。ぜひ、世界のなかで日本文学がどのようにとらえられているのかを、この講座を通して知っていただけたらと思います。